

チリ 新しいブルーベリー品種の定着により生果の輸出が回復

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月8日

チリ・ブルーベリー委員会 (Frutas de Chile (チリ果実輸出業者協会) 傘下) は、2025-26年度シーズンに向けた第2回輸出予測を発表し、その中で前年同期比1%の出荷量の増加を見込んでいる。このわずかな成長は、継続的な回復と高性能な新品種への移行の進展に起因すると同委員会は説明している。

4年連続の減少の後、2024-25年度シーズンには生果実の輸出が5%増加した。成長の一因は、新品種の出荷が49%増加し、それらが総輸出量の21%を占めるに至ったことである。

同委員会のアンドレス・アームストロング事務局長は、2025-26年度シーズンには、権利が保護された品種の出荷が67%増加し、一方、従来品種は17%の増加が見込まれると述べている。

同氏は、「前シーズンと同様であるが、今シーズンは品種構成の移行が数量の増加以上に重要になっている。前シーズンに21%を占めていた新品種と保護された品種は、総出荷量の35%を占める見込みである」と述べた。

出荷のピークは安定、冷凍品の輸出が急増

同委員会は、北部地域、すなわちコキンボ州からの出荷の開始がやや早まると予測している。出荷のピーク期間は、例年どおり第51週(12月中旬)から第3週(1月中旬)の間と見込まれている。

アームストロング氏は、現在進んでいる品種転換は、国際競争の激化と風味、品質、安定性の向上ニーズへの対応であると説明している。

一方、冷凍部門は、競争力の低下した古い品種にとって重要な販路となっている。同委員会は、パンデミック期の消費習慣に一部起因するとされるこの部門の世界的な需要の高まりを強調している。

2025-26年度シーズンのチリ産ブルーベリーの輸出量は、3億5,400万ポンドを超える見込みであり、そのうち冷凍部門が43%を占めると見られる。この予測はまた、全体として前年同期比で2%の増加を示している。